

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護の統合と実践		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	今若 広之	実務経験と その関連資格	総合病院にて看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
3年間の学習内容を活用し、より臨床実践に近い形で学習し、臨床において適応できるような基礎的知識と技術を学ぶ。また、卒業時到達目標に向け技術練習を行い、臨床看護の場で活用していくことができるように、状況に応じての援助方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
授業参加状況、演習への取り組み、看護計画、振り返りレポート、筆記試験で総合的に評価する。 判定試験に合格することで本科目の履修が認められる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、臨床看護総論、呼吸器、循環器、血液・造血、消化器、内分泌代謝、脳神経、腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯科・口腔、人体の機能と構造、疾病の成り立ちと回復、臨床外科総論、各論、看護技術がみえる1・2、看護が見える フィジカルアセスメント、臨床看護、機能障害からみる看護過程1・2・3						
《授業外における学習方法》						
1.授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後の課題に取り組むこと。 2.演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨む。既習の看護技術の講義内容をよく復習し、ワークシート、WEB 教材や看護技術のサブテキストを活用して、毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進める。						
《履修に当たっての留意点》						
健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげたい。臨床現場を想定した事例を通し、優先順位の判断や時間管理、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学んでほしい。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 授業を通じての到達目標	授業の進め方、課題学習の説明、学習内容を理解し、主体的に学ぶ。			今まで使用した教科書	指定した教科書を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	科目の進め方、学習方法について				
第2回	講義 授業を通じての到達目標	複数事例の健康上の問題をアセスメントし、看護計画が立案できる。			今まで使用した教科書	課題学習の提出:提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護。授業終了後、課題提出。
	各コマにおける授業予定	複数患者の事例展開(個人ワーク、情報整理、必要な援助、優先順位)				
第3回	講義 授業を通じての到達目標	複数事例の健康上の問題をアセスメントし、優先順位を考えた看護計画が立案できる。			今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
	各コマにおける授業予定	複数患者の事例展開(グループワーク、情報整理、看護問題、優先順位)				
第4回	講義 授業を通じての到達目標	複数事例の健康上の問題をアセスメントし、優先順位を考えた看護計画が立案できる。			今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
	各コマにおける授業予定	複数患者の事例展開(グループワーク、情報整理、看護問題、優先順位、必要な援助)				
第5回	講義 授業を通じての到達目標	1人の患者のケア計画を優先順位を考えて立案できる。			今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
	各コマにおける授業予定	1人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	2人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案ができる。	今まで使用した教科書	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	2人の患者の状態から優先度、順序性、時間管理について判断し、行動計画の立案		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	患者の状態や複数患者の優先度にあわせた看護実践ができる。	今まで使用した教科書	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	・患者の状態にあった看護実践 ・複数患者の優先度にあわせた看護実践（援助計画に基づいて技術演習）		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	患者の状態や複数患者の優先度にあわせたをグループで協力しながら看護実践ができる。	今まで使用した教科書	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	・患者の状態にあった看護実践 ・複数患者の優先度にあわせた看護実践（グループ、援助計画に基づいて技術演習）		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	患者の状態や複数患者の優先度にあわせたをグループで協力しながら看護実践ができる。	今まで使用した教科書	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	・患者の状態にあった看護実践 ・複数患者の優先度にあわせた看護実践（グループ、援助計画に基づいて技術演習）		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実施した看護援助をチームメンバーと共に評価・修正できる。	今まで使用した教科書	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	発表、まとめ		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	学習内容について振り返り、課題を明確にする。	今まで使用した教科書	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	発表後のリフレクション		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の実施を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。	吸引用シュミレータ、吸引器、酸素吸引、教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の看護技術		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の実施を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。	吸引用シュミレータ、吸引器、酸素吸引、教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔・気管内吸引、酸素吸入の看護技術		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	静脈血の採血の実施を安全・安楽に実施できる。	採血・静脈注射シュミレータ、教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による静脈血の採血		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	静脈血の採血の実施を安全・安楽に実施できる。	採血・静脈注射シュミレータ、教科書、看護がみえる1・3、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による静脈血の採血		